

2018年6月発行

## 補聴器の購入費用に係わる医療費控除の取り扱いについて

医師等による診療や治療を受けるために直接必要な補聴器の購入費用については、医療費控除の対象となる医療費に該当するとされていますが、日本耳鼻咽喉科学会が定めた「補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)」において、医師等による診療や治療と購入する補聴器の関係を記載する項目が設けられ、補聴器が診療等のために直接必要か否かについて、同学会が認定した**補聴器相談医が、補聴器が診療等のために直接必要である旨を証明している場合、当該補聴器の購入費用**(一般的に支出される水準を著しく超えない部分の金額に限ります。)**は、医療費控除の対象になります。**(国税庁ホームページ 個人課税課情報第3号平成30年4月16日より抜粋)

## 障害者総合支援法一部改定 「認定補聴器技能者による調整料¥2000」が適応に

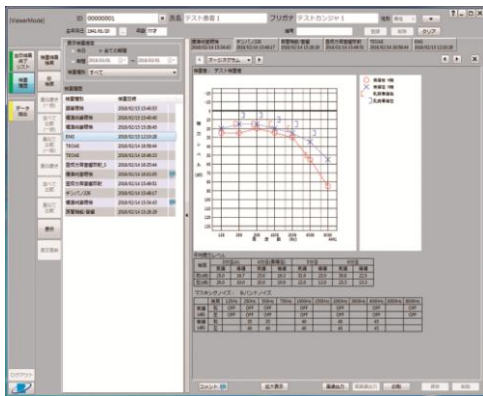
障害者総合支援法に基づく補装具費支給に係る告示(平成30年4月1日適用)より抜粋

障害者総合支援法による補聴器について、「補装具費の種目、購入等に要する費用の額の算定等に関する基準」(平成30年3月23日厚生労働省告示第121号)において、補聴器の調整に係る加算が示されました。【補装具費の種目、購入等に要する費用の額の算定等に関する基準・抜粋】「デジタル式補聴器で、補聴器の装用に関し、専門的な知識・技能を有する者による調整が必要な場合は、2,000円を加算すること」また、この「**専門的な知識・技術を有する者**」は、**補装具業者に配置されている言語聴覚士または認定補聴器技能者とする事**という記述が示されました。

## 新製品レポート

リオンが2018年3月20日に

### 「聴覚検査結果支援システム - メディレポ(MediRepo)」を発売開始



この支援システムは、オーディオメータ等のリオン製医用検査機器で検査した結果を医療機関の院内情報システムへ送信するソフトウェアです。

本ソフトウェアは、オプション(使用ライセンス)の利用により院内情報システムの規模や使用環境に応じて、機能をカスタマイズすることが可能です。

医師からの検査オーダー(検査依頼)や検査技師などからの検査終了報告を、検査結果とともに医療機関の院内情報システムと連携し、それらの送受信を行います。

なお、本ソフトウェアは、リオン製医用検査機器を導入している大学病院、総合病院から小規模病院までの幅広い医療機関を対象としています。

#### 主な特長

- 1) 院内情報システムの規模や接続する検査機器、また必要とする情報に応じて、機能をカスタマイズすることができます。(新機能)
- 2) リオンが用意する全ての機能を搭載したソフトウェアとなっており、インストール後、必要な機能の使用ライセンスをご購入いただくことで、その機能を利用することが可能となります。(新機能)
- 3) 検査データ、年齢・性別などの患者情報、オーダー情報の管理・閲覧など、これらの情報を一元管理しているため、各種データの管理・閲覧が本ソフトウェアひとつで簡単に行えます。(新機能)
- 4) 操作画面は、操作ボタンを絞り込んだことにより見やすくなり、直観的な操作を実現しています。(新機能)
- 5) 医師の閲覧に特化した「ビューモード」を搭載し、診療時間の短縮に貢献します。
- 6) 現在と過去の検査結果は、「重ね書き」、「並べて比較」などの多彩なプレビュー画面での閲覧が可能となりました。  
※オーディオグラムなどの表示対応可能な検査項目に限る
- 7) 医師の研究用として、複数の患者の聴覚検査データを聴覚レベル、年齢、診断例など条件別に抽出し、テキストデータとして出力することができます。(新機能)  
※オーディオグラムのみ

#### 目次

1. 補聴器の購入費用に係わる  
医療費控除の取り扱いについて
2. 障害者総合支援法一部改定
3. 新製品 レポート
4. 軽度難聴フィッティングにおける  
「きこえの評価-補聴前・補聴後-」  
の活用

## 軽度難聴フィッティングにおける「きこえの評価 -補聴前・補聴後-」\* の活用

### 症例

男性 71歳 会社役員

耳鼻咽喉科からの紹介で来店

平均聴力レベル ④32. 5dBHL ⑤36. 3dBHL

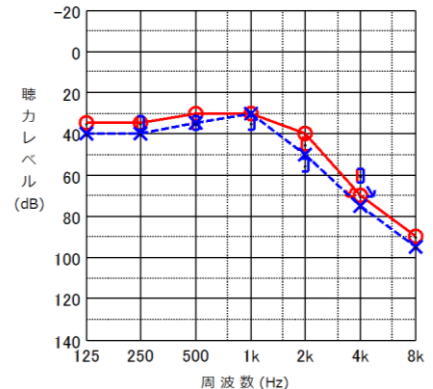
診断名 感音難聴

補聴器(耳あな型 CIC 両耳)装用下で音場にて語音明瞭度測定

50dB 100% (裸耳 90%) 35dB 85%(裸耳 70%)

最終段階では下記の「きこえの評価 -補聴前・補聴後-」にて

10項目中6項目で装用による改善点が確認され、装用決定となりました。



聴力レベル 軽度中度難聴		(装用しないとき→○ 装用したとき→●)				
下位尺度	スコア	1	2	3	4	5
	項目	いつも聞き取れる	聞き取れることが多い	半々くらい	聞き取れないことが多い	いつも聞き取れない
良条件下の語音	A	○●				
	B	○●				
	C		●	○		
環境音	D	●	○			
	E	○●				
悪条件下の語音	F		●	○		
	G		○●			
	H		●	○		
	I	●		○		
	J	●	○			

### きこえの評価 -補聴前・補聴後- 質問項目 (赤字は改善した項目)

- A) 静かな所で、家族や友人と1対1で向かいあって会話する時、聞き取れる  
 B) 家の外のあまりうるさくないところで会話する時、聞き取れる  
 C) 買い物やレストランで店の人と話す時、聞き取れる D) うしろから近づいてくる車の音が、聞こえる  
 E) 電子レンジの「チン」という音など、小さな電子音が聞こえる F) うしろから呼びかけられた時、聞こえる  
 G) 人ごみの中での会話が聞き取れる H) 4, 5人の集まりで、話が聞き取れる I) 小声で話された時、聞き取れる  
 J) テレビのドラマを、周りの人々にちょうどよい大ききで聞いている時、聞き取れる

※補聴器適合検査の指針 2010「質問紙による適合評価」Audiology Japan 53, 2010

- ・10項目の質問
- ・頻度を指標とした5段階の評定尺度で回答
- ・回答は自己記入
- ・補聴器装用後 ● が  の欄に7項目以上入ることを適合の指針とする
- ・補聴器装用前と比較して、補聴器装用後にスコアが1以上減少した項目も「補聴による改善あり」と評価する
- の欄が、軽中等度難聴(補聴器装用者)の中央値以下のスコア範囲を示す

弊社では軽度難聴者に対する補聴器装用効果の確認のために、音場測定と併せて「きこえの評価 -補聴前・補聴後-」を実施しております。軽度難聴者は裸耳でも語音明瞭度スコアが良く大幅な補聴器装用効果を示す例が少ないことから、「きこえの評価 -補聴前・補聴後-」により装用者の主観的評価を定量化することで音場測定だけでは評価しにくい日常場面での満足度を確認し、フィッティングの重要なデータとして活用しております。

TOSHIN Hearing NEWS 発行元

 東神実業株式会社  
トーシン・補聴器センター

本社：〒550-0002 大阪市西区西本町2-4-7

TEL：06(6531)2541 FAX：06(6531)3398

URL：http://www.toshin-ha.co.jp/